

令和5年度 北海道中学校バドミントン大会 競技・審判上の注意

この大会は、令和5年度（公財）日本バドミントン協会競技規則及び大会運営規程並びに公認審判員規程、令和5年度第54回北海道中学校バドミントン大会要項および参加細則、競技・審判上の注意により行う。

1 全般的事項

サービス高を1.15mに固定するルールを適用する。ポストにコート面から1.15m高さのところにテープでマークを付け、そのマークを基準にコート面から1.15mの高さのところに水平面をイメージし、判定する。サービスジャッジは配置しない。

試合進行はできるだけタイムテーブルにそって進めるが、時間短縮のため、コートが空いたら随時試合を入れていく。時間・コートの変更がありえるので放送や進行表示に注意し、すみやかにコートに入ること。

試合が連続する場合は、前の試合終了後、10分間を確保して次の試合のコールをする。

入場について、団体戦及び個人戦ともに、トーナメントで上に記載されている方が主審の左側に入ること。

競技中の服装は、大会運営規程第23条によるものとする。上位の背面中央部には、（公財）日本中学校体育連盟バドミントン競技部申し合わせ事項に従って校名（クラブ名）及び姓の表示をすること。ゼッケンは、四隅を留めることとする（背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと）。

表彰、入退場、試合の挨拶の際は、マナーとしてウェア（上衣）の裾は下衣の中に入れること。

試合中の水分補給は、基本的に主審が汗拭きを認めた際に、試合進行に影響が出ないように素早く済ませること。飲み物はスクイズボトル（水筒）に入れること。フロア内では、試合中の水分補給以外の飲食は認めない。

今大会はコートサイドにカゴを用意しない。タオル、スクイズボトル、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド（主審のそば）に置くこと。また、その他の物はコーチ席で保管すること。なお、交換用ラケット（ケースから出しておく）はバッグの上に出しておくことを認める。

ハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止とする。氷のうは、ソフトタイプの保冷バッグに入れ、コーチ席で保管すること。

うちわについては、インターバル時のみ使用を認める。ラリー中に使用しないこと。叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。

団体、個人ともにコーチ席は2席とする。コーチ席の椅子は、チェンジエングごとに持ち歩かず、そのまま置いておくこと。

ベンチまたはコーチ席に入るときの服装（監督、コーチ）は、公認審判員規程第5条第12項第8号に従い、試合にふさわしい服装で臨むこと。マネージャー（教員、生徒）および選手がコーチ席に座る場合もこれに準じる。

審判の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレーヤー、団体戦の場合は当該プレーヤー、または監督が質問できる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。（大会運営規程第6章第36条）原則として試合に負けたチームの監督、外部指導者（コーチ）、マネージャー（教員あるいは地域クラブ指導者などの大人に限る。生徒による審判は認めない。）が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席まで来て下さい。また、敗者選手には線審をお願いします（単は1名、複は2名）。なお、得点係と単の場合のもう1名の線審は主管地区協会が担当します。

審判団は各試合主審、線審2人、得点係1人を配置する。サービスジャッジは配置しない。

試合中のけが等の応急処置は、レフェリー及び救護スタッフの確認のもと、各自の責任で行う。重大なけがの場合は救護スタッフが対応に協力する。その後の処置は各自の責任とする。

フラッシュや、ライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止とする。

別紙「改訂 競技・運営上の注意」と、プログラムの「レフェリー（競技役員長）から競技審判上の確認と連絡」を熟読すること。

2 試合に関する事項

監督は当該学校の校長・教員、中体連事務局に登録している地域クラブ活動の指導者であること。外部指導者（コーチ）は、事前に中体連事務局に登録している当該学校の校長が認めた者とする。マネージャーは当該学校の教員、地域クラブ活動の指導者または生徒（中学生）のいずれかとする。

（1）団体戦

各コートのコーチ席に入れるのは、登録している（男女別）監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、団体戦に登録されている選手のいずれか2名以内とし、必ずIDを付けることとする。インターバル中にコートでアドバイスできるのは2名以内とする。

団体戦でベンチに座ることができるのは、登録している（男女別）監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、選手とする。チェンジエンスの際に、ベンチの移動は認めない。

オーダー交換は、対戦相手が決まり次第、放送にて案内する。定刻（指定のあった時刻）までにオーダー用紙の提出がないときは、棄権と見なす場合がある。

試合のコールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶をする。トーナメントで上に記載されている方が主審の左側に入ること。

マッチ前練習は、チームごとの練習ではなく、各マッチそれぞれで3分間行う。団体戦の挨拶が終了後、複1から順にコートに入り、挨拶、トスが終了してから主審の合図で3分間行うこととする。（3分間の中に主審のコールおよび「ラブオールプレー」が含まれるので、実際の練習時間は2分程度となる。）双方とも必ず練習を行うものとする。単の場合は対戦選手と、複はパートナー同士での練習とする。

2コートを同時に使用しての並行試合を行う。試合の勝敗は複1・単・複2のうち、いずれか2マッチを先取したチームの勝ちとする。進行の関係で3コート同時に試合を行うこともある。この場合は監督に確認の上で実施する。また、どちらかのチームが初戦の場合は第2複まで行い、それ以降は（2マッチ先取）後、打ち切る。

（2）個人戦

コーチ席に入れるのは、男女別を問わず、その学校（チーム）で登録している監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）または団体登録選手のうち2名以内とし、必ずIDを付ける。また、インターバル中のアドバイスも同様とする。

個人戦のマッチ前練習は、どちらかが初回戦のみ3分間行う。（3分間の中に主審のコールおよび「ラブオールプレー」が含まれるので、実際の練習時間は2分程度となる。）単の場合は対戦選手と、複はパートナー同士での練習とする。